

五戸総合病院での研修を終えて

三沢市立三沢病院 研修医 2 年次

吉本 愛

この度、地域医療研修として約 1 ヶ月五戸総合病院にお邪魔させていただきました。

五戸に伺うまでの私の所感につきましては、私の普段研修している三沢病院の 1 年上の先輩であるところの渡邊先生の研修後コメントをご参照ください。まったく同感でした。我々のいるところは青森でも八戸でも弘前でも十和田でもありません。三沢です。どちらも田舎なことには大差ないだろうと。実の所、その所感については渡邊先生とは違い、研修前と研修後でそこまでコペルニクスの転回はありませんでした。

ただ、驚愕したのは人手の足りなさです。三沢がそれなりの田舎なことには変わりはないものの、常勤医師数はさすがにもっといます。地域の医療資源の不十分さを痛感させられたと同時に、ジェネラリスト的素養が医師に要求されていることが理解できました。

また詳細は差し控えますが、未曾有の事態により、突如として外来でも病棟でも独り立ちを迫られました。自分自身の判断を迫られる中で、様々なことを見つめ直しました。自身の能力と置かれている立場。病院の機能。周辺病院・施設の能力や視点。患者背景や病状。

ちなみに、私は俗に言うヤバいレジデント、通称ヤバレジというやつです。救急対応の ABC をもじって、ヤバレジの間では研修医の ABC というものがあります。Away from the patient／Behind the nurse／Call another doctor です。私はこれを全力でやりました。

病院機能上、対応に難渋する症例は高次医療機関へ紹介する Away を、長年勤めていてスタッフに色々訊きまくる Behind を、困ったら外勤の先生だろうととっ捕まえて判断を仰ぐ Call を。ヤバレジ ABC は聞こえは悪いですが、存外に間違った判断ではなかったのではないかと思います。

初期研修で地域医療が必修となっている最たる理由としては、こういった経験を積みということなのだろうと個人的には解釈しました。急性期病院や近医との紹介を通じて、各病院に求められている役割や病院機能というものが見えてきました。また、地域病院での医師として求められる役割も多岐にわたります。そして、患者さん一人一人のゴールも異なります。急性期の場合もあれば、慢性期の場合もあり、ニーズに合った診療を行うことの必要性を痛感しました。

大変な時期ではありましたが、そういった地域における中核病院の役割を身に染みて体感出来た、充実した 1 ヶ月間だったと思います。

院長の安藤先生や上級医の及川先生、一緒にチームだった 2 年目同期の方々は勿論、相談に乗っていただいた脳外科の赤坂先生、外勤でいらっしゃった循環器科や内科の先生方。助けてもらった薬剤科や技師の方々。そして、大変な中不出来な自分をサポートしていただいた外来・病棟の看護師の方々。

一緒に働いてくださったスタッフの皆さまに、心より感謝申し上げます。1 ヶ月間、本当にありがとうございました。